

# 「野菜カーテン」(ゴーヤ)の育て方

## 1 ゴーヤによる「野菜カーテン」の効果

最近、地球温暖化対策の一つとして、つる性植物を茂らせ窓を覆う「緑のカーテン」が盛んになってきました。夏の日差しを和らげ、葉の蒸散作用で室内の温度を3℃程度下げることがあります。

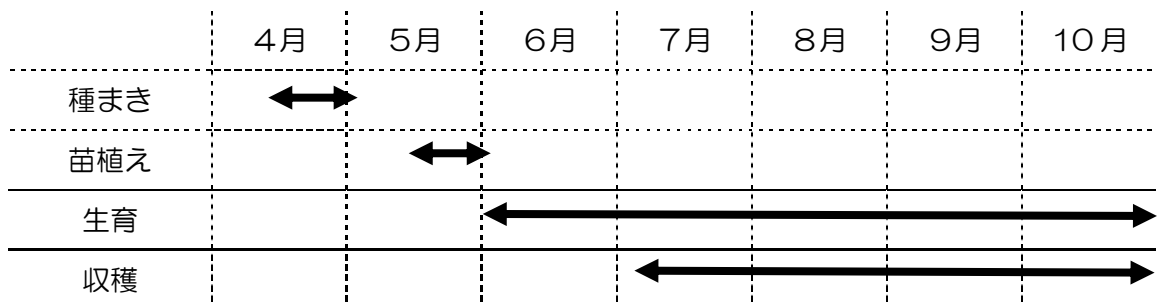
## 2 ゴーヤの性質

- ・病害虫に比較的強い
- ・高温と多日照で果実の肥大がよい
- ・土の酸度は中性（pH6~7）がよい

## 3 用意するもの

用意するもの		
ゴーヤの種（苗）	プランター	ジョウロ
田土または無病土	園芸ネット	鉢底石
完熟たい肥 （牛糞もみ殻堆肥など）	支柱一式	ひも
肥料（ゴーヤの肥料、苦土石灰）		
直径 7.5cm 程度のポリ鉢		

## 4 栽培スケジュールの目安



## 5 栽培方法

### (1) 土の準備

- ①土7に完熟たい肥3を加え、苦土石灰でpHを中性(6~7)に調整する。  
(酸度調整は田土1kgに対し苦土石灰2~3gが目安)
- ②使用する2週間以上前に土を調整し、休ませておく。
- ③プランター1つで約40kg(約45L)の土が必要

### (2) 苗づくり

- ①種子の種の尖った方の先端を少しカットして、  
水でヒタヒタにした小皿等に入れて発根を待つ。  
3~4日程度で発根するが、気温が低い時は7~10日以上かかる場合がある(25~30℃が適温)。
- ②白い根が2mm程度でたら、白い根を下向きに直径7.5cm程度のポットに1粒まき、2cmほど土をかぶせ、十分に水やりをする。
- ③25~30℃程度で管理し、随時水やりを行う(苗づくり中の水やりは控えめにして、強い苗を作る)。  
また、強い日光が当たって高温にならないように管理する。
- ④種まきから約1週間で芽が出て、それから3~4週間で本葉2~4枚になる。



爪切りなどで  
カット

### (3) 苗植え~生長・・・ネットの設置は日当たりの良い場所で

- ①上記の土1kgに対し固形30号などの肥料1g程度をよく混ぜ、プランターに入れ苗を植える。プランターから水が落ちない程度に水をまく。
- ②本葉2~4枚でプランター1つに2株を植える(苗と苗の間は40cm程度離し、根鉢を崩さないように植える)。
- ③本葉5~6枚になったら、親づる(中心のつる)の先を2~3cm切る。



- ④ひもでつるとネットを結わえ、扇型になるよう仕立てる。
- ⑤つるが50cm程度に伸びたら、プランター1つに固形30号などの肥料を

20～30gまぐ。また、実が付きだしたころ、同様に肥料をまぐ。それ以後、2週間におきに肥料をまぐ。肥料は株元から5～10cm離れたところにまぐ。

⑥プランター表面の土が乾いたら水をやる。（※つる性で葉の多い植物のため蒸散が多い）。

⑦草が生えると肥料や水を吸ってしまうので、小さいうちに抜き取る。

⑧プランター1つあたりの肥料（固形30号の場合）は約350g必要である。

#### 病害虫の発生について

ゴーヤは比較的病害虫の発生が少ない野菜ですが、夏の乾燥期にはうどんこ病（葉にうどん粉をまき散らしたようになる病気）に注意が必要です。見つけたら、早めに被害葉を摘み取りましょう。



写真はキュウリのうどんこ病

#### （4）収穫

①種まきから約2ヶ月以降に収穫を迎えるので、その都度収穫する。

#### （5）種どり

①黄色く熟した実から種をとる。

②風通しの良い日陰で種を乾かす。

③乾燥したら、手のひらで種をやさしくこすり汚れを落とす。

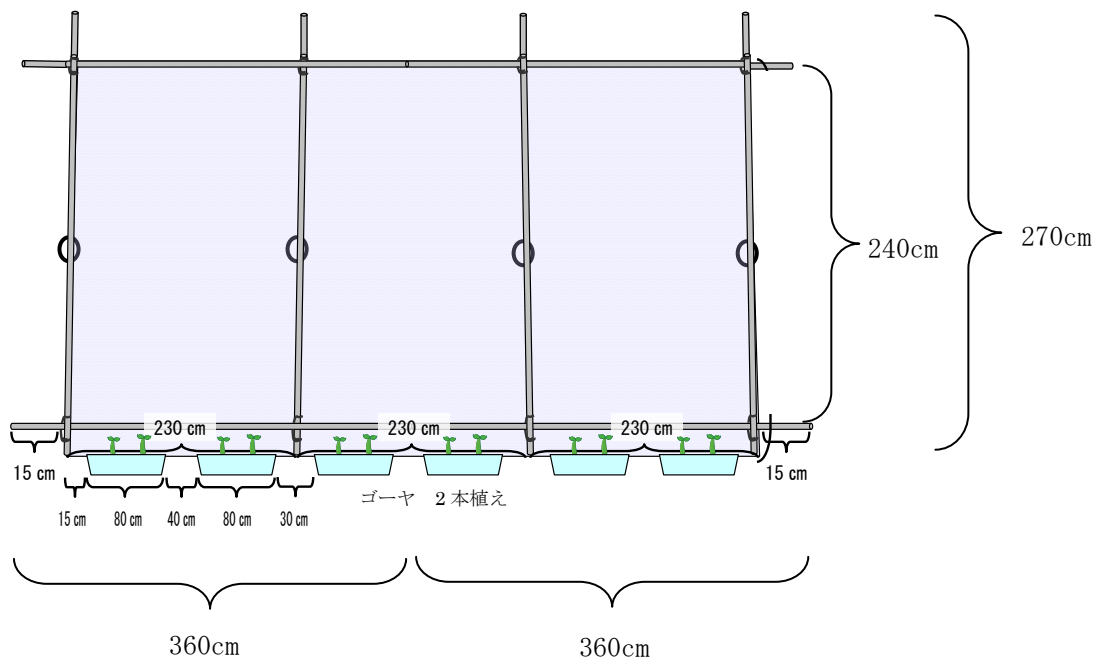
④密閉容器に入れ、冷蔵庫で保管する。

#### （6）片付け

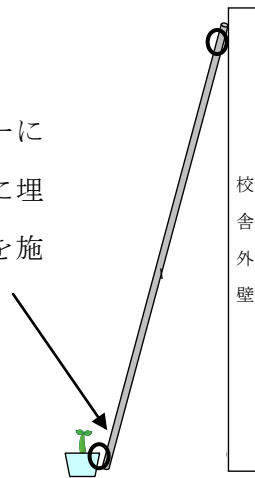
①ネットに巻きついているつるを外して、ネットをたたむ。

②片付けた資材は保管して、次年度活用する。

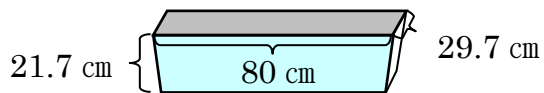
## 6 設置イメージ



パイプをプランターに  
固定するか、地中に埋  
めて強風等の対策を施  
してください。



パイプが倒れない  
ように設置してく  
ださい。



### 【注意点】

- ・ ネット日当たりの良い場所に設置する。
- ・ 工夫して、風で資材が飛ばないように支柱の上下をしっかりと固定する。
- ・ キュウリネットの余った部分は切ってください。